

モデルプログラム I-5 日本語指導の計画と実施

ー内容（教科等）と日本語の統合学習「JSL カリキュラム」の授業設計ー

ねらい	外国人児童生徒等が学習経験や既有知識を活かして教科学習に参加し日本語の力をも高めるためには、内容（教科等）と日本語の統合学習の実施が必要であることを理解し、文部科学省開発の「JSL カリキュラム」に基づき授業を設計できるようになる。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
外国人児童生徒教育・日本語指導の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5-9年 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	I 日本語指導の計画と実施 F 言語と認知の発達
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	<u>60</u> 分 （ただし、活動案作成ではなく、学習指導案作成の場合は 120 分）
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 「外国人児童生徒等」の教科学習上の困難を理解する。(10分) ・生活言語能力と学習言語能力(F)	1. 教科の教科書の中で、おしゃべりができても理解が難しいと考えられる箇所を探し、その理由を考える。できるだけ国語以外の教科で実施する。 ◇以下の点への気づきを促す <ul style="list-style-type: none"> ・学習参加の日本語の力（学習言語能力）の重要性 ・教科内容の理解は日本語の力そのものではない ・子どもの学習経験・既有知識の把握の重要性
2. 教科と日本語の統合学習の考え方を知る。(15分) ・内容（教科）と日本語の統合学習「JSL カリキュラム」(I)	2. 「JSL カリキュラム」の事例について話し合い、「教科」と「日本語」の両方の学習を目的にする統合型の学習について、考え方を理解する。 「JSL カリキュラム」の授業実践例（ビデオ、指導案、実践報告書等）を見て、子どもが参加している様子から、次の点について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象の児童生徒の日本語の力や教科の力 ・教科と日本語の目標の設定とその到達度 ・探究活動（思考活動）の配置とその活動での子どもの様子 ・教師の働きかけ（問いや指示）の日本語表現 ・支援の具体的な工夫とその効果
3. 「JSL カリキュラム」の考え方で学習活動を設計する。(30分) ・実態把握(I) ・目標設定と教育内容の決定(I) ・指導方法と評価方法の決定(I) ・スキャフォールディング(J)	3. 1で取り上げた理解が困難な箇所について、「JSL カリキュラム」の考え方に基づき、活動展開や支援方法を考える（講師が中心になって、①～⑤について、やりとりをしながら、アイデアを引き出して）。 <ol style="list-style-type: none"> ①対象の児童生徒を設定する。 ②教科の目標と日本語の目標を設定する。 ③内容を理解するための探究型の活動を軸に全体の流れを構想する。 ④教師からの問い・指示の日本語を明確にする。 ⑤理解したことを、日本語でどのように表現させるかを決定する。
4. 今後の取り組みの予定を立てる。(5分)	4. 振り返りと今後の取り組みについて予定を立てる。 「この授業／研修で学んだこと」、「今後、取り組みたい教科・単元と支援の工

・授業(実践)の省察(M)	夫」をシートに書く。
備考	1は、F「言語と認知の発達」を学んでいれば、簡単に確認する程度でよい。3を「JSLカリキュラム」の学習指導案作成の活動とする場合は、グループ活動とし60～90分で実施する。また、指導案を共有する時間をつくる。⇒可能であれば教壇実習として実施